

衛生害虫

衛生害虫という言葉をご存知ですか。蠅、蚊、蚤、虱など人間の衛生状態に対して何らかの悪影響をもたらす虫のことですが、人類の歴史は衛生害虫に悩まされ続けたものではないかと思えるほどです。

中でも悩まされたのが蚊による伝染病、中でもマラリアは今でも毎年 2 億人が感染し 60 万人以上が命を奪われています。この病気をもたらすマラリア原虫は 3000 万年前の琥珀に閉じ込められていた蚊から見つかったほど歴史が古いものです。ゴリラなどに感染していたものが人間にとって大きな脅威となったのは定住生活を行うようになった 1 万年前頃からです。ピラミッド建設にあたった労働者にニンニクを与えていたのはマラリア予防のためだったとの説があるほどです。

もちろん人類もマラリアにやられっぱなしではなく様々な対応をしています。まず刺されないようにするための蚊帳ですが、紀元前 2600 年頃には既に使用していました。これがマラリア予防のためか、蚊という不愉快な害虫を妨げるためなのかは分かりませんが対応はしていたのです。

このマラリアに悩まされたのが旧日本軍で、激戦地として知られるガタルカナルでの死者約 2 万人のうち戦闘によるものは約 5 千人で残りはマラリアなどによる病死だったのではないかとされています。

この当時の衛生状態というのは極めて劣悪で蚊帳があるのは将校クラスだけで、一般の兵隊は五十人ほどが一つの蚊帳に入って寝るという有様。予防薬として渡されるストリキニーネを殆どの兵隊が捨てていました。その理由が「苦いから」という実に御粗末なもの。そのためガタルカナルの将兵でマラリアに感染しなかった者は一人もいなかったのではないかとされるほどです。

このストリキニーネを入れていた容器がセルロイド製で、処方していた通りに服薬すればマラリアにはならぬと書いてあったのは前にも述べた通りです。

この伝染病が蚊の媒介によるものと知られるようになったのは 19 世紀終わりごろで蚊を撲滅するための手段が取られるようになって減少しましたが、先程述べましたようにまだ多数の患者、死者が発生しているという厄介な病です。

ガタルカナルの捕虜から聞き取りを行ったり、占領した野戦病院を見たアメリカ軍は日本の軍隊は世界で一番不衛生な環境に置かれていた。これでは戦わずして負けていると言っています。

先ほど蚊帳について少し触れましたが、この蚊帳を吊る輪の代用品としてセルロイドが使われていたことも以前に書きました。

もう一つの代表的な衛生害虫である蠅もポリオ、赤痢、サルモネラ菌などの媒介役として知られていて人間の歴史に多大な悪影響を及ぼしてきました。

人間も黙っていたわけではなく蠅叩き、蠅捕り紙、蠅捕り瓶、蠅捕り器などで対応してきました。中でも天井にとまった蠅を気圧の変化により吸い落とすという、スポイトを長くしたようなかんじの蠅捕りをご存知の方は多いと思います。この蠅捕りはガラス製のものが多かったのですが、セルロイドも使われていたはずなのです。でも残念ながら実物がありません。もしお持ちの方がいらっしゃいましたらご連絡ください。



蠅捕り瓶



回転式蠅捕り器



スポイト式蠅捕り器

この他にも蚤、虱、ゴキブリなど人間の歴史は衛生害虫との戦いの歴史であったと言っても過言ではありません。これからも続くことでしょう。その際にはセルロイドも戦いに寄与していたということを思っていたきたいものです。